

都道府県・ 指定都市番号	40	都道府県・ 指定都市名	福岡県	研究課題番号・校種名	2 (4) 小学校
				領域名	E S D
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	おおむたしりつよしのしょうがっこう 大牟田市立吉野小学校 (395名)				
所在地 (電話番号)	福岡県大牟田市大字白銀967番地17 (0944-58-1037)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/yoshino-es/">http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/yoshino-es/</a>				
研究のキーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ E S D年間計画</li> <li>・ ストーリーマップ</li> <li>・ 教科，領域等の関連</li> <li>・ 主体的な学び</li> <li>・ 地域との連携</li> </ul>				
研究結果のポイント	<p>○年間計画と単元計画における E S Dに関する内容を全職員で共通理解することにより，全学年で，生活科及び総合的な学習の時間と他教科等との関連を意識した横断的・総合的な学習活動を展開している。</p> <p>○地域を身近に感じたり，地域行事等に関心をもったりしている児童の割合が高い。</p> <p>○地域人材の協力体制を整え，全学年において計画的に地域人材を活用できるようにするとともに，E S D推進に対する地域の方々の関心を高めたり，理解を深めたりしている。</p> <p>●目指す児童像が広く多様なために，検証に当たっての難しさがある。</p> <p>●多面的に思考することについて，一層の充実が求められる。</p>				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

持続可能な社会づくりについて自分の考えをもち，行動する児童の育成  
 ～自己の学びの振り返りを位置付けた課題解決活動の工夫を通して～

### (2) 研究主題設定の理由

新学習指導要領の前文において，一人一人の児童が持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。また，学習指導要領の改訂の中で「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)，「何を学ぶか」(教科等を学ぶ意義と，教科等間のつながりを踏まえた教育課程の編成)，「どのように学ぶか」(主体的・対話的で深い学び)を重視されている。

このようなことから，実社会へ目を向け，児童が思考し，学んだことを生かし，行動していくことが大切であると考え，本研究主題を設定した。

本校におけるこれまでの研究において，子供たちの主体的な学びに課題が残っている。その要因として，生活科及び総合的な学習の時間と他教科等との関連を意識する視点が曖昧であったこと，子供たちの既知や未知等を問題意識に沿ってどのようにつなぐかという活動の仕組みが不十分であったことが考えられる。そこで，これらの課題を解決していくために，教科等横断的なカリキュラムの編成と，振り返り活動を位置付けた課題解決活動の在り方という指導方法，そして本研究を体系的に進める学校体制を整備していきたい。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

平成30年度	5月 研究構想，研究計画の作成，及び協議 6月 本年度における研究の方向性の確認 7月 ESDで身に付けさせたい能力・態度に関する子供のアンケート調査（実態調査） 9月 主体的な学びに関する，外部講師を招聘した全員授業 10月 授業研究会（理論面，授業づくりについて） 10月～11月 各近接部会における，授業研究会（授業づくりについて） 11月 研究の一端を保護者や市内の一部教員へ広める公開授業 11月～12月 研修会への参加及び先進校への視察 12月 2学期実践の振り返り 児童アンケート調査（ESDで身に付けさせたい能力・態度アンケートを含む） 1月 主体的な学びについての日常共通実践の見直し 2月 子供の学びの成果を広める，ユネスコスクールフェスティバルの開催 3月 研究まとめの会（研究の成果と課題，次年度へ向けた方向性の検討）
--------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 自己の学びの振り返りを学習過程に位置付けた課題解決活動の構成
- ・課題のつかませ方
  - ・交流活動の在り方
  - ・考えを可視化し，交流を旺盛にする手だて

- ② 総合的な学習の時間、生活科を中心とした指導計画について
  - ・ ESDカレンダー、ストーリーマップを活用した教科等横断的な学習の計画
  - ・ 本校が取り組むESDの領域の整理と各学年の系統について

- ③ 地域と関わる取組
  - ・ 地域との関わり、つながりの類型化

## (2) 具体的な研究活動

### ① 課題解決活動の具体化について

- 主体的な学びの原動力は、子供にとって切実感や必要感のある課題が大切である。そこで、導入段階において、子供たちが問いをもつことができるような事象や人との出会いや体験活動を位置付け、ズレを感じさせたり、期待感をもたせたりするようにする。
- 話し合い活動を活発にするために、考えの根拠となる体験活動を位置付けたり、相互の考えの検討や思考の整理（可視化）に役立つような思考ツールを活用したり、カードや付箋紙等を活用した操作活動を位置付けたりする。また、思考を可視化することにより、何を根拠にどのように考えているのか自覚できるように促す。
- 学習の終末段階において、学習内容と学び方の視点から振り返る場面を設定する。
- 課題解決の過程において地域人材を活用することで、関心を広げたり、思考を深めたりできるようにする。
- 課題を明確にする教材とするために、「持続可能な社会づくりに関わる課題を見い出すための6つの視点」を基に教材化、単元開発を図る。

### ② 総合的な学習の時間、生活科を中心とした計画

#### ○ESDカレンダー（年間計画）の作成の手順

- ・ SDGsを基にした目標を設定することで、学習の目的を明確にする。
- ・ 総合的な学習の時間と生活科における単元を年間の適切な時期に配置する。
- ・ 学習する単元と関連する教科等を内容と学び方の視点から洗い出す。
- ・ 総合的な学習の時間、生活科の単元と他教科等と線で結び、関連を明示する。

#### ○ストーリーマップ（単元計画）の作成

- ・ 主となる単元の活動内容が子供の意識に沿ったものとするとともに、活動の質的な高まりが見られるように計画する。
- ・ 内容と学び方の二面から関連教科等と結び付け、何をいつ計画の中に位置付けるか検討する。

#### ○内容の領域と系統の整理

「国際理解・地域・伝統文化」「エネルギー環境」「生命（いのち）」の3つから内容の領域と系統を整理する。

### ③ 地域と関わる取組

#### ○地域との関わり、つながりの類型化（4点）

地域人材の活用目的を次の4点を基に明確にし、位置付ける。発達段階に応じた地域との関わりを検討することにより、地域と協働することができるようにする。

- ・ 子供から地域へ関わる（学び等の発信） ・ 地域から子供へ（知識や技能の伝達等）
- ・ 子供と地域の双方向（互いの考えや思いを伝え合う、検討する）
- ・ 子供と地域の協働（目標を共有し、互いの立場からできることを行う）

### (3) P D C Aサイクルへの取組について

#### < 1 学期 >

- P) 研究構想の検討，大牟田市教育委員会指導主事による研究構想についての指導  
児童質問紙による実態調査

#### < 2 学期 >

- D) 主体的な学びに特化した授業研究（全員授業）：県教育庁南筑後教育事務所指導主事による指導助言

検証授業：全校授業研究会及び近接授業研究会，E S D公開授業の実施（課題解決活動の具体化について，ストーリーマップの見直し修正）

- C) 授業研究会による協議，児童質問紙による実態把握
- A) 「地域のことに進んで参加している」の項目は成果が見られるが，「身の回りの出来事をいろいろな立場から考えている」の項目には課題がある。多面的に見たり，関連付けて考えたりする力を育成することが必要である。
- P) 日常の授業におけるペア活動やグループ活動，他者意識をもつことができる活動を位置付ける。考えを比較する場面を設定し，子供たちが検討することができるようにする。

#### < 3 学期 >

- D) 授業実践
- C A) 一年間の取組をまとめ，成果と課題の要因分析を行う。
- P) 次年度へ向けた取組の方向性の検討を行う。

### 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 地域を身近に感じたり，地域行事に関心をもったりしている子供が多く，進んで地域へ関わろうとする態度が培われてきている。
- E S Dカレンダーやストーリーマップを基に，全学年で，生活科，総合的な学習の時間と他教科等との関連を意識した学習活動を展開することができている。
- 地域人材の協力体制が整い，全学年において計画的に地域人材を活用することができている。
- 児童質問紙項目の「授業に主体的に取り組んでいる」に課題があるため，必然性のある課題，交流活動とするための授業の仕組みを一層検討していく必要がある。
- 新学習指導要領とE S Dの視点を関連付けた目指す児童像の整理・設定が必要である。
- 全学年で段階的に子供を育成していくために，総合的な学習の時間の全体計画における生き方の系統を整理・修正する必要がある。
- E S Dカレンダーを内容と目指す資質・能力の関連という視点から見直す必要がある。

### 4 今後の取組

- 新学習指導要領において育成を目指す資質・能力とE S Dで身に付けさせたい能力・態度の関連を明確にすることで，目指す児童像を整理する。
- 生き方の系統性を見直し，E S Dによる指導内容の整理をする。
- 関連教科等の整理を行い，E S Dカレンダー（年間計画）及びストーリーマップ（単元計画）の充実を図る。
- 対話的な学びを充実させるような，対話の在り方を検討する。

○推進体制における各担当の役割を具体化し，学校全体で組織的な運営を行う。